

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

あと一か月で夏休み！

爽やかさの中にも暑い夏日が混じって、体力を消耗する毎日です。

十日後には中総体を控え、各部とも日々練習に励んでいます。また部活

以外でも、それぞれの場所、自分らしく頑張っている話も耳にしています。熱中症には十二分に気を付けて、それぞれが暑い夏を乗り切っているように思っています。

私も今年、4年ぶりの国語の集まりが札幌で行われるので参加します。授業づくりで話が白熱すると思いますが、とても楽しみにしています。

「昨年の通信から」

一年で疲れがたまったり、気分が落ち込んだりする時期が三回あるそうです。

それは、六月・十一月・二月で、人間の体の仕組みや気候の変化などから科学的にも証明されているそうです。

昨年発行した学校通信で書いたものを再掲します。少し気にかけて、乗り越えましょう。

六月はなんだか宙ぶらりんの一か月で、気持ちの持っていない方が難しく感じられませんか？今の時期は年度初めの新鮮さが薄れていくと同時に、悪い意味での慣れも出てきます。学校や周囲の人たちの良い点は「当たり前」で目立たなくなり、そうでない点ばかりが余計に目について、つい不満や文句が出てしまいがちになります。そんな時にはいったん立ち止まって

「今の不満が本当にそうなのか？」
「自分の気持ちの持ち方にこそ原因があるのでは？」
ということをじっくり考えてみて

バイク旅の危険②

てください。
見方一つで良く見えたり、逆になったりしますが、人生を幸せに生きるコツとしてはやはり前向きな見方考え方をすることだと私は思います。
コップに半分のジュースを見て「もう半分」「まだ半分」あなたはどちらの考えを持ちますか？

【路面の変化】気温が五十度近くになると、照り返しが強く路面が白く光って見えて状況が判断しにくくなります。未舗装路はなおさらです。

硬い未舗装路が4WDやロードトレインから表面を削られると、「コルゲーション」という洗濯岩状の路面になります。ガタガタ波打っており、オートバイで走るとものすごい振動でハンドルがとられます。

安定して走るには時速八十km以上で、跳ねるように走るしかありません。スピードを落とすとバイクは振動でネジが緩み、部品が外れてしまいます。未舗装路を高速で走るのはかなりの緊張感ですが、まだ硬い路面ならば真つすぐは走れます。

しかし路面状況が砂になると状況は一変します。路面がキラキラ光って見えたらそれは砂地です。クリークの近くは砂の路面が多く、スピードを緩めます。

いきなり道路上のくぼみに赤い砂の吹きだまりがあるときもあります。それは「ブルダスト」といって赤い酸化鉄を含み、服やバイクにまわりついて、マフラーを赤くするオーストラリアの大地の色です。

ブルダストの粒子はかなり細かく、空中に舞うとなかなか地面におちないので視界が悪くなります。またブルダストのくぼみに突っ込むとバイクは急ブレーキと同じ状態になり、最悪の場合、前回りにつくり返ります。つまり高速で走りながら、砂やブルダストを察知し、速度を調整する判断力が求められるのです。

何度か、痛い目や怖い目にあうと、何となくですが地形や路面の変化のパターンが分かるようになります。地図上での川が近づくと砂地になるから手前でスピードを落とす等です。何十回もこけてバイクはボロボロになりましたが、大自然のど真ん中で格闘した時間は、体に刻み込まれ今でも鮮明に覚えています。「経験から学ぶ」「体で覚える」をまさに体現した経験でした。運転は危険を察知したら迷わずスロウダウンです！

「海を渡る『ワニ』」

ワニってどこに生息しているのでしょうか？私は河川にいるものとばかり思っていました。ところがオーストラリアの北部の海岸ではところどころワニ（クロコダイル）のピクトグラムを

目にしました。その下には英文が書いてあります。よく読むと、「クロコダイルの生息地帯ですもし襲われたら重大なケガをするか死に至るでしょう」

この看板がある場所では絶対に泳いではいけません。またキャンプしてもいけません。砂浜でのんびりするのにも危険です。地元の人に聞くと、川のワニは大きくても2メートルほどで魚を主食としているそうです。いっぽう海に生息するクロコダイルは4〜5メートルもの大きさになり、最大6メートルのものも捕獲されていて、ダーウィンの博物館にその剥製が展示されています。

海のワニは人を襲います。陸上でも襲うのでサメよりもある意味恐ろしい存在なのです。何を食べたらそんなに大きく成長するのでしょうか。ある生物の個体が大きく成長するのは、それを可能にする豊かな自然環境があるという証明です。海に住むクロコダイルは個体数が減り、保護されているいますが、その生存を支えているマングローブや海の生態系の豊かさを感じますね。看板には注意！そして英語の勉強もしつかりと！

校長室より

一年生の授業で、課題が進まず困っている様子に、そつと近づいて覗き込み、「頑張れ」とさりげなく声かけ。言われた子も嬉しそう。優しい思いやりと仲間意識を見られた嬉しい瞬間でした。